

競 技 上 の 注 意

1 競技は（公財）日本ソフトテニス連盟の「ソフトテニスハンドブック」および大会要項に従って行う。

- (1) 選手の服装は要項記載の通りとし、服装には常に気を配り、そでまくり、ズボンを下げて履いた状態でプレーすることなどの無いように心がけること。（警告の対象とする）選手の腕等へのペイント・文字の書き込み、装飾品（ミサンガ等）は禁止とする。
- (2) 給水はチェンジサイズ及びファイナルゲーム前のインターバルの1分以内にベンチで行う。さらにチェンジサービス時（2・4ゲーム終了時）及び、ファイナルゲームの2回目以降のチェンジサイズの際にも審判台付近での給水も認める。その際、給水のみを速やかに行い打ち合わせなどは行わない。
なお、会場での気温が非常に高い状態になった場合には、本部の指示によりファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰での休憩等のヒートルールを適用する場合がある。
- (3) ベンチは、番号の小さいチームが審判台から見て左側とする。
- (4) 全試合とも「あいさつ」の後、1分間ラリーを認める。45秒でアンパイヤーが「レディ」のコールもおこなう。コール後、マッチ開始の位置につき、それ以降速やかにプレーに入らない場合は遅延行為とみなし、そのプレーヤーに「イエローカード」を提示し、警告1回とする。
- (5) プレーヤーは、お互いにマナーを尊重し、相手を不快にさせる態度または過度のかけ声をしないこと。
- (6) プレーヤーは、アンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーすること。
- (7) 個人戦において、試合が2試合連続する場合は、最大15分間、3試合以上連続する場合は最大20分間のインターバルをとる。ただし、天候などの理由により変更する場合もある。
- (8) 団体戦について
 - (ア) オーダーの提出
 - ・各校初戦については、「コート開放終了までに」男女各進行本部に提出すること。
その後の試合は対戦する両チームの前の試合が終わってから10分以内に提出すること。
2枚複写で作成したものを、男女各進行本部に監督が提出すること。
 - ・本部の指示があってもオーダーを提出しない場合、遅延行為とみなし5分につき警告1回とする。
 - (イ) 試合開始時刻にコートに集合整列する。集合していない場合、5分につき警告1回とする。
 - (ウ) 3ペアの点取り対抗戦とし、2点を得たチームを勝ちとする。ただし、1回戦のみ3組すべての対戦を行う。
 - (エ) サービス（レシーブ）とサイドの決定は、3組の対戦ごとにコートで行う。
 - (オ) 試合開始前の円陣は遅延行為とみなし、警告1回とする。
 - (カ) チームの選手が応援をする場合は、ベンチに座って応援する。ただし、次の試合の選手がベンチから離れてコート後ろで体操などすることは認める。このときラケット・ボールは使用せず、応援には参加しない。
 - (キ) 熱中症予防の観点から、以下の2点を認める。
 - ・ベンチ内での日傘の使用を認める。ただし、太陽光を反射する素材の日傘は使用しないこと。
 - ・対戦をしていない選手がコート外で休息をとることを認める。ただし、進行等に妨げのないように十分に気を付けること。整列時に集合できなかった場合は遅延行為とみなし、5分につき警告1回とする。
 - (ク) アンパイヤーに対する質問は、監督またはプレーヤーが行うことができる。ただし、異議申し立てをしてはならない。

(9) 個人戦について

- (ア) 自ペアの前の対戦が始まったら、試合を行うコート付近に集合すること。前の対戦が終了し次第、コートに集合整列すること。集合していない場合、5分につき警告1回とする。
- (イ) アンパイヤーに対する質問は、プレーヤーが行うことができる。ただし、異議申し立てをしてはならない。

5 監督・コーチについて

- (1) 監督（コーチ）〔団体戦においては、監督（コーチ）および団体戦のメンバー〕が、マッチ内に選手に助言する場合は、チェンジサイズ及びファイナルゲーム前のインターバル1分以内とし、監督またはコーチが所定のベンチに座って行うこと。それ以外のタイミングでの助言（ブロックサイン等を含む）は禁止する。その際、1分でアンパイヤーが「レッツプレー」のコールをおこなう。また、1分経過の時点で、プレーヤーが次のゲームを開始する行動に移っていない場合、そのプレーヤーに対し、「イエローカード」を提示し、警告1回とする。なお、会場での気温が非常に高い状態になった場合には、本部の指示によりファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰での休憩等のヒートルールを適用する場合がある。
- (2) 団体戦で2面展開になった場合、監督（コーチ）は、両コートの中の中央に位置し助言をする。3面展開の場合は、真ん中のコートに位置し、2面展開に準じるものとする。
- (3) 個人戦で同一校複数ペアが同時に試合に入った場合、監督（コーチ）はひとつのコートのベンチを離れ、他のコートへ移動すれば、もとのコートのベンチには戻ることはいできない。また、その代わりに他の人が入ることもできない。同一校のペアが並んで同時に試合に入った場合、監督（コーチ）は、隣のコートの選手に助言することはいできない。

6 マナーについて

- (1) 以下のようなかけ声・応援などは禁止とする。選手・監督は警告の対象。応援団は注意の喚起（または退場）の対象となる。
 - (ア) 過度のかけ声・相手を不快にさせる発声・威圧的な発生や動作。プレー・マッチの進行・大会運営上などに支障があると判断される場合
 - (イ) アンパイヤーの判定に支障を及ぼすようなインプレー中の発声。
 - (ウ) ベンチ・応援団からの助言（次のプレーに関わる内容の指示・かけ声）※ブロックサインを含む。
 - (エ) 音の出る道具を使用しての応援
- (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーすること。

7 その他

- (1) 監督（コーチ）および団体チームメンバーの応援時の傘（日傘を含む）の使用は認める。ただし、傘の色は光を反射するもの（銀など）については認めない。（応援者・観客の方も、光を反射し、試合に支障があると判断される場合は同様）
- (2) うちわの使用については認めるが、応援道具としては使用しない。また、プレーに支障があると判断した場合は使用を禁止する。
- (3) 監督（コーチ）および選手によるコート内へのクーラーボックスの持ち込みは可とする。
- (4) 応援横断幕・旗などの掲出は、大会本部が認めたコート横のフェンスのみ可とする。
- (5) マッチ中にコート内で通信機器等は使用できない。
- (6) 競技中のフラッシュ撮影は禁止する。
- (7) 個人情報保護の観点から、大会記録や選手の写真・動画などを無断でSNS等に掲載することや、相手を誹謗中傷する書き込みを禁止する。
- (8) 医療については、応急処置のみ本部で行う。